

～ 高校生に対してのがん教育の授業を行って～

皆様 こんにちは

以前、『がん教育』が、学校の現場（小学校～高校）で、取り扱われるようになったこと、近隣の中学校で私が授業を担当させていただいたことを取り上げました。

長野県内には、パイロット校といって、がん教育のモデルとなるように県で選ばれた学校が、小学校、中学校、高校に各一校あるわけですが、今回は高校のパイロット校である富士見高校にお誘いいただき、50分1コマの授業を担当させていただきました。

1クラス約40人弱の生徒さん向けへの授業でした。

生徒さん達とは、2018年11月にパイロット校である同校の公開授業に私自身が見学させていただいたときに面識がありました。

依頼をくださった担当の先生からのリクエストと、そのときの生徒さん達の印象を元に授業内容を考え、特に『緩和ケア』というものと『アドバンスケアプランニング』という考え方について知ってもらいたいと考え、授業してきました。

生徒達と年齢が近いとあるスポーツ選手の話題がでていたタイミングでもあり、『がん』という病名が告げられ、直接の治療というのはこれからとしても、告知の時点ですでに心と体に対するご本人、ご家族への配慮（それこそが『緩和ケア』）が必要というメッセージをまず送りました。

また、直接アドバンスケアプランニングという言葉は使いませんでした。擬似的な症例を通して、一人一人人生について大切にしているところが異なることから、状況によっては限られた時間の中で、がんの治療と日常生活のバランスをとりながら、患者さん、そのご家族と医療者とで相談して、診療のあり方を含めた設計図を作っていくことも大切なことであることを考えていただく機会を持ちました。

当日は、テレビや新聞などマスコミの方も取材にきていただき、生徒さん達は緊張していたようにも思いましたが、まじめに話を聞いていてくれ、何かしら私の話から一つでも心に残るものが届けられたとしたら良かったと思っています。

その後のフィードバックをしながら、今後のライフワークの一つとして、がん教育については取り組んでいきたいと思っています。

では、また。